

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大によって世界が大きく変わってしまったといわれています。一方、世界中でオンラインでの業務やセミナー、会議が一気に普及したように、デジタルトランスフォーメーションにとって、今まさに追い風が吹いていることも確かです。

今月号では、デジタル技術を活用した鉄道構造物メンテナンスの取り組みについて特集しました。一昔前から、労働人口が減少する未来を懸念し、鉄道施設のメンテナンスが抱える課題や技術継承の問題が議論されてきましたが、鉄道構造物のメン

テナンスにおいても、デジタル化や働き方改革の追い風が吹くことで、調査や診断の省力化が一気に進むことが期待されます。もちろん、鉄道構造物にも、追い風を受ける準備ができている部分と、そうでない部分もあり、前者には早期の実用化、後者には弛まぬ開発の継続が求められているといえます。

来月号では、自然災害に関する広域情報などの活用に着目した「運行管理に活かす鉄道の防災・減災技術」について特集します。どうぞご期待ください。(M.Y.)